

# 第5期iRIC-UC会員総会 議事録

---

- 日時:2021/12/24 10:00～
- 場所:オンライン

## アジェンダ

---

- iRIC研究会、RIC、iRIC-UCのこれまで、現状、これから（清水先生）
- iRIC研究会の活動方針（竹林先生）
- 第4期収支・活動報告（旭）
- 第5期予算案、活動方針（旭）
- 意見交換

## 確認/承認いただいたこと

---

- iRIC研究会、北海道河川財団（RIC）、iRIC-UCのこれまで、現状、これから
- iRIC研究会の活動方針
- 第4期収支・活動内容
- 第5期予算案・活動方針(具体は次期総会)
- 次回会員総会を2022年春（4～5月）に開催すること
- 会員制度変更

## 質疑・意見交換

---

### 第4期収支・活動報告

#### ○iRIC内の翻訳について

- 今回、翻訳したのはGUI用のトランスレーションファイル。ソルバー用は現在英語のみ。
- ソルバー用にGoogle Translationを使う場合は、使用方法を共有する必要がある（旭さん）

### 第5期予算案、活動方針

#### ○会員制度について

- 総会での報告どおり会員種別を「法人会員のみ」とすることで調整中
- ご意見、ご希望ある方は旭までご連絡いただきたい

---

#### ○予算、活動報告について

- 会員制度、メリットの見直しとともに整理する

---

#### ○使用目的等、上流の内容に関する講習会について

- 今まではiRICの使い方についての講習会がメインだったが、会社運営側の目線で考えるともう少し上流の目線が必要では？「発注者の意向、今後の方針」について聞ける場等。（清水先生）
- 「気候変動にどう対応するのか、SDGsにどう対応するか」といったような時流に則った内容でインターナショナルのイベントをiRIC主催で開催することができないだろうか。（馬場様）
- 次の一手を何すればよいかは、みんな気にしているはず。そうすると、行政の考えや世間の時流を知る場はとても重要。GISとかでもユーザー企業を集めたカンファレンスとか行われている。そこを参考にしたらどうか？（向井様）
- 内部で教育するのが大変。iRICに限らず、水理、土砂について学べる場があると企業としては嬉しい。（向井様）
- ユーザーとして、iRICを使用する経験値は多く積める。一方、iRIC内部の仕組みについては、理解せずに使っている人が多い。そういった学びの場が増えることは嬉しい。（柏田様）
- 中身を学ぶ講習会の依頼はよく来る。iRIC研究会、UCに限らず、学習の場を提供すると良い。（竹林先生）
- 講習会の参加証明書が欲しいという話もある。社内講習会であっても、iRIC-UCのハンコがついたCPDが出せれば良いと思う。（柏田様）
- 理科大で作っているソルバーをiRICに載せて使うことがある。iRICは可視化ツールとして優秀。各自の計算資源をメリット最大化とするための講習があると喜ばれるのでは（柏田さん）
- iRIC研究会のアンケートで「他のコンサルタントがiRICをどう使っているのかを知りたい」という意見が多かった。iRIC活用事例の発表会とかあると良いのでは？UC内で共有できると、企業へのメリットにもなるのでは？（竹林先生）
- 発表する側がいるだろうか？業務データは見せられない。とかある。（旭さん）
- 社内発表会にiRICUCが出張する形も取れる。（清水先生）
- 行政の人に発表してもらった方が良いのでは？（旭さん）
- 北海道開発局の内部発表のうちiRICを使っているやつとか出せそう（濱木さん）
- 論文発表に使っているものは公開しやすい。逆に会社独自のものは公開しにくい。行政データも許可を取るなど調整が大変。（川村さん）

---

## ○海外対応について

- 日本国内のデータを取得する環境は整ってきているが、海外のデータは対応しないのだろうか？（馬場様）
- 海外展開は視野に入れたいが、資金化の目処が立っていないのが現状。JICAの資金提供等、何かしら手段がないだろうか？（清水先生、旭さん）
- 可能性あるのはサトリックス？iRIC研究会で大型案件を取りに行く？
- JICAにiRICを認識してもらって、サポートしてもらえるような土台作りが必要じゃなからうか。（竹林先生）
- 日本自体が途上国に「教えてあげる」という状況じゃないのでは。
- 途上国は既に途上国ではなく、中進国になっていて、一方的に支援する立場ではない。（清水先生）

- 半分正解。ただし、時流を踏まえて上手く対応していく道はある。（馬場様）

## [方針]

- 海外対応については、iRIC研究会を主体として検討する。
  - UCは国内のコンサルから資金提供を受けているので、そちらにメリットを優先する。
- 

## ○採用について

- 22歳人口は減少傾向にあって、各社リクルートが大変。学生との交流が提供できる場があると、企業へのアピールにはなるのでは？（向井様）
  - 大学現場の状況を知りたい。（旭さん）
- 

## その他

---

- iRICのロゴを刷新する予定です
- 今回の報告内容について意見があれば、RiverLINK旭までご連絡ください